

リハビリテーション科

【人員体制】 (2019年3月31日現在)

職 種	数	内 訳
医 師	2	リハビリテーション科部長 回復期リハビリテーション病棟部長
理学療法士	65	総合病院 専任 49名 介護老人保健施設 専任 11名 訪問看護 専任 3名 訪問リハ 専任 2名
作業療法士	18	総合病院 専任 13名 介護老人保健施設（通所リハ含む） 専任 5名
言語聴覚士	18	総合病院 専任 14名 介護老人保健施設 専任 2名 訪問看護 専任 1名 訪問リハ 専任 1名
事務職員	2	総合病院 専任 2名

(休職中職員含む)

【概要】

2018年診療報酬改定では、①地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化・強化、連携の推進、②新しいニーズにも対応でき、安心・安全で納得できる質の高い医療の実現・充実、③医療従事者の負担軽減、働き方改革の推進、④効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の強化の4つを柱に据え、入院医療は基本的評価部分と実績評価部分の2つに再編統合された。回復期リハビリテーション病棟入院料は、これまでの入院料1～3を、新しく1～6にわけ、15対1の看護職員配置、PT2人・OT1人の要件を基本部分としたうえで、重症者の割合や在宅復帰率等の実績で差をつけている。地域包括ケア病棟入院料・入院管理料は、これまでの入院料1と2が、新たに1～4に見直された。13対1以上（7割以上が看護師）の看護職員配置、重症度、医療・看護必要度、在宅復帰やリハビリテーションに係る職員の配置要件は基本部分として共通、実績部分で差を出している。当院リハビリテーション室もこの基本方針に対応すること、岐阜圏域や県全体の高度医療の中心的役割を担うことを念頭に日々業務に努めてきた。

入院早期より多職種と協力し、リハビリテーショ

ン医療の提供や患者の適切な病棟への移床を検討するために、早期離床・リハビリテーションチームにセラピストを配置し、ニーズにあった治療・訓練を提供している。また、継続したリハビリテーション医療の提供が必要な患者には、急性期治療終了後、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟においてリハビリテーションが受けられるよう主治医・看護師・MSWやPFMなどと連携を図っている。

生活期では、介護老人保健施設が超強化型の在宅復帰施設となったため、入所者の機能・能力訓練を強化し在宅復帰への支援を行っている。訪問看護ステーションでは、理学療法士および言語聴覚士による訪問リハビリテーションを行っている。2019年3月からは、訪問リハビリテーション事業所を開設し、必要な方に必要な訓練を提供し、自立した生活の維持・向上に努めている。

今後も、患者の状態に応じたりハビリテーション医療を提供できるよう、育成や人員の充実を図っていく。

【2018年度の取り組みおよび実績】

要介護被保険者等に対するリハビリテーションについて、機能予後の見通しの説明、目標設定の支援等を強化するための活動・参加の支援に努めた。

回復期リハビリテーション病棟のアウトカム評価では、治療・訓練の効果実績を把握し、一定以上の質を提供することができた。また、適切な病棟運営のため、毎週、入院患者の状態を確認しPFMへの情報提供を行った。

地域包括ケア病棟チームにより、より良いリハビリテーション医療の提供体制を整えた。

がん患者リハビリテーションを適切に提供するため、多職種とともにがん患者リハビリテーション研修修了者の増加を図った。

脳神経外科・整形外科・循環器内科等との合同カンファレンスに週1回定期的に出席し、情報共有を高めている。各セラピストをチーム編成することで、より効率的で効果的なりハビリテーション医療の提供を図っている。

地域においては、笠松町と岐南町と連携し、地域包括ケア会議の出席や介護予防事業への取り組みにも継続参加して、地域包括ケアシステムの構築の一役を担っている。

学会発表では、日本リハビリテーション医学会や日本作業療法学会、日本言語聴覚学会等々で23演題発表を行い、第17回日本フットケア学会年次学術集会では座長を務めた。講演は、岐阜県フットケア指導士交流会等々で5講演を行った。

資格は、フットケア指導士、日本糖尿病療養指導士、認定理学療法士（脳卒中）、3学会合同呼吸療法認定士等の取得をした。

日本医療機能評価機構の病院機能評価審査では、「2-2-17 リハビリテーションを確実・安全に実施している」A評価、「3-1-5 リハビリテーション機能を適切に発揮している」S評価をいただいた。また、適時調査においても指摘事項は特になく臨床や書類等々が適切に作成され運用されていると評価を得た。

働き方については、就業時間を意識した効率の良い業務を目指し、業務と業務外を明確して適切な業務管理に努めた。

【理学療法部門】 急性期チームと回復期チーム、地域包括ケアチームに機能分担している。

急性期チームは脳血管・運動器・内部障害（心大血管・呼吸・がん）チームに分け、急性期病棟入院中の患者に対して、早期離床、早期退院を目標とした治療・訓練を提供している。がん患者においては、緩和ケアチームに継続参画し治療・訓練を提供している。障害者病棟に入院中の患者に対しては、家人への指導も含め、機能維持を意識した介入を継続している。

回復期チームは、在宅で自立した日常生活動作の向上を目標とした治療・訓練を提供している。地域包括ケア病棟チームは、急性期病棟からの入棟が多いが、住み慣れた地域・環境でいつまでも楽しく生活できるよう、リハビリテーションを提供している。

訪問看護ステーションと訪問リハビリテーション事業所（2019年3月開設）から理学療法士の訪問も継続し、急性期～回復期～在宅へと切れ目のないリハビリテーションを行なっている。

糖尿病などの生活習慣病療養指導や特別養護老人ホーム入所者に対する介入に加え、羽島特別支援学校への出向を継続し、生徒一人一人に合わせた介入・指導を行っている。

【作業療法部門】 回復期リハビリテーション病棟を軸として介入しつつ、急性期においても上肢機

能訓練や巧緻動作訓練、日常生活動作訓練を、ベッドサイドから早期に訓練を開始し、患者の早期離床、早期退院を目標とした治療・訓練を提供している。生活期では、自立支援の観点から、少しでも長く住み慣れた在宅や地域で生活できるよう進めている。

【言語聴覚療法部門】 脳血管疾患に伴う言語障害、摂食嚥下機能障害の患者を対象にベッドサイドより訓練を開始している。また、小児の発達・言語障害の外来訓練を行っている。訪問看護ステーションおよび訪問リハビリテーション事業所から言語聴覚士の訪問も継続し、在宅でのニーズにも応えている。羽島特別支援学校へ出向を継続し、生徒一人一人に合わせた介入・指導を行っている。

【院内活動実績】

生活習慣病療養指導、各種委員会参加、臨床実習指導、母親教室運営協力、回復期リハ病棟連携会議、部門別勉強会、医療安全研修（KYT、RCA）、喀痰吸引研修、BLS講習、新人スタッフ症例発表会等

【院外活動実績】

介護老人福祉施設（特養）への機能訓練指導、羽島特別支援学校の児童・生徒のADLの維持向上や支援等、笠松中学校メディカルセミナー協力、笠松町健康増進プログラム協力、野球肘健診協力、失語症友の会の運営協力、学会発表、研修会参加、地域包括ケア会議参加、笠松町介護予防事業参加

【今後の展望】

2018年度の診療報酬・介護報酬改定では、さらにアウトカムの評価が重視され、病棟機能に合わせた診療報酬が段階的となった。

急性期～生活期の各期において、適切なりハビリテーション医療の提供を行い、患者や利用者を住み慣れた地域・環境で暮らすことができるよう引き続き進めていく。

今後も、患者や利用者の生活を見据え、急性期から回復期へおよび生活期のリハビリテーションを効率よく提供し、地域包括ケアシステムの構築に寄与することで、地域で完結するリハビリシステムの確立を行っていききたい。

〔文責：松波紀行 佐野和幸〕

2018年度 リハビリテーション実施患者数（延べ人数）

単位：人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計		
理学療法	脳血管	2017年度	1,817	1,921	1,759	1,698	1,970	1,846	1,764	1,760	2,014	1,869	1,659	1,677	21,754	
		2018年度	1,608	1,701	1,535	1,585	1,413	1,504	1,822	1,806	1,760	1,702	1,736	1,726	19,898	
	廃用	2017年度	841	1,114	1,294	1,375	1,322	1,246	1,326	1,156	1,041	1,069	982	1,178	13,944	
		2018年度	850	1,123	1,375	1,497	1,531	1,398	1,444	1,484	1,426	1,581	1,384	1,401	16,494	
	運動器	2017年度	1,569	1,619	1,610	1,787	2,001	1,856	1,997	1,798	1,658	1,639	1,735	1,617	20,886	
		2018年度	1,486	1,676	1,750	1,908	2,223	1,631	1,826	1,865	1,909	1,803	1,674	1,827	21,578	
	呼吸器	2017年度	486	447	453	452	487	572	603	431	545	557	519	459	6,011	
		2018年度	384	500	349	346	445	485	545	418	361	399	508	334	5,074	
	心大血管	2017年度	707	832	566	385	403	295	401	405	430	508	479	637	6,048	
		2018年度	704	870	822	673	555	370	435	327	318	435	482	566	6,557	
	がん	2017年度	182	288	321	244	259	200	140	175	179	104	128	156	2,376	
		2018年度	199	176	160	222	214	251	287	320	248	188	160	284	2,709	
	作業療法	脳血管	2017年度	1,017	1,166	1,134	1,032	1,017	941	866	824	1,012	1,004	836	837	11,686
			2018年度	712	795	723	820	744	754	941	954	932	937	928	976	10,216
廃用		2017年度	34	22	49	41	22	19	0	9	15	47	5	0	263	
		2018年度	0	0	0	3	31	15	0	0	14	41	23	40	167	
運動器		2017年度	280	284	314	436	404	362	554	451	411	395	431	420	4,742	
		2018年度	385	460	417	531	657	457	514	468	527	466	496	533	5,911	
呼吸器		2017年度	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
		2018年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
心大血管		2017年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2018年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
がん		2017年度	0	14	13	8	4	0	1	0	0	0	0	0	40	
		2018年度	0	0	0	0	0	0	2	19	0	1	0	0	22	
言語聴覚療法		脳血管	2017年度	889	984	993	931	1,051	1,019	1,066	965	1,097	932	766	806	11,499
			2018年度	808	903	777	774	778	718	906	910	905	910	892	900	10,181
	廃用	2017年度	187	279	278	352	315	333	285	185	153	216	187	230	3,000	
		2018年度	219	210	243	239	223	222	232	194	172	218	206	261	2,639	
	がん	2017年度	0	0	0	4	2	9	3	2	0	0	3	2	25	
		2018年度	0	7	3	3	2	0	1	21	0	1	5	0	43	
	摂食機能訓練	2017年度	130	139	152	91	123	183	131	156	162	212	218	245	1,942	
		2018年度	201	216	301	429	450	420	505	508	547	512	505	505	5,099	

2018年度 実習生受け入れ実績

	学校名	人数
理学療法部門	鈴鹿医療科学大学	1名
	中部学院大学	1名
	中部大学	1名
	名古屋学院大学	1名
	名古屋大学	1名
	愛知医療学院短期大学	1名
	平成医療短期大学	1名
	あいち福祉医療専門学校	1名
	東海医療科学専門学校	1名
	トライデントスポーツ医療看護専門学校	1名
	名古屋医専	1名
	理学・作業名古屋専門学校	1名
作業療法部門	愛知医療学院短期大学	1名
	岐阜保健短期大学	2名
	平成医療専短期大学	1名
	国際医学技術専門学校	2名
	サンブレッジ国際医療福祉専門学校	1名
言語聴覚療法部門	愛知淑徳大学	1名
	聖隷クリストファー大学	1名
	日本聴能言語福祉学院	2名

急性期リハビリテーション転帰

単位 / %

	自宅	施設	転院	転棟	終了	死亡
2013年度	58.7	15.3	9.6	1.8	1.7	12.9
2014年度	66.1	12.1	6.9	0.3	2.4	12.2
2015年度	65.0	10.5	5.4	0.8	4.5	13.8
2016年度	64.0	12.3	4.1	0.9	4.7	14.0
2017年度	67.2	13.0	5.2	0.1	3.8	10.7
2018年度	65.5	15.0	6.8	0.1	1.6	11.0